



安倍仲磨入唐記
一



阿倍仲麿入唐記

總目錄

- 大極四象
- 奉從江州靈龜
- 阿倍仲麿入唐
- 阿倍家斷絶
- 仲麿夫人貞死
- 大臣滿月麿仁愛
- 仲麿唐土詠詞
- 仲麿高臺餓死
- 元正天皇御治世
- 靈龜嘉瑞評議
- 養老瀧來由
- 阿倍好根公不義
- 吉備大臣遣唐使
- 仲麿唐土賢才
- 玄宗皇帝仲麿對面
- 仲麿冥鬼成



中
天
目
録

○大臣 吳鬼 對面

○玄宗皇帝大臣 對面

○安錄山大臣 護

○皇帝大臣 謀弒

○玄東妻 隆昌女 事

○隆昌女 圍碁 論談

○大臣 玄東 碁勝負

○皇帝大臣 難題

○野馬臺詩

○大臣 義心

○隆昌女 恩死

○玉兔集 日本渡

○阿倍清明 曆道傳

阿倍仲磨入唐記總目錄終

安部野仲磨入唐記卷一

拙言譽撰

天地之廣大ナル宇宙之無量ハ凡慮ノ及ハサル言語
 スベカラス爰ヲ如來ハ智見ニ至ヒテ三千大千界ト
 御演說ナレト是實ニハ筆數ノ計リニ非ス三千大千
 界トハ謂ク三トハ易ニ云ク無極ノ中ニ物アリ是乾坤
 未分ノ一ニ則大極ト名ク一大極兩儀ヲ生ス陽爻 陰爻兩
 儀四象ヲ生ズ大陽 少陽 大陰 少陰四象八卦ヲ生ズ八卦別レテ八々
 六十四卦ヲ生ズ六十四卦重リテ六々三百六十四卦ヲ
 生スル時易道大ニ成テ万物是ガ外ヲ出テス已上易ノ起 卦之意
 然レハ一切有テニヲ生スルノ象チハ大極ト三心 三萬物ヲ
 生スル一切有為無為ノ法皆如是コノ故ニ三千界トハ
 限リ無キヲ云フ佛法ノ大イナル教工ナルベシ元ヨリ

三千界トハ佛智見ノオス處ニメ實ニハ盡虚空遍
 法界トカレ其上ニ十方無量ノ淨土アルヲ説
 父レハ此義ニ於テハ凡慮ハヲロカ三賢十聖弗
 側所規ナリ但一切衆生仰テ信スベシ掲抑々尊敬
 奉リ微塵モ私智ヲ加ベカラス私智ヲ加ヘハ本理ヲ
 失フ凡慮計ラハ大道破レン可恐メ悲ムベシ尔レ
 世澆季ニヲヨヒ又レハ邪智ノ人多クナリ劫濁惡ニ
 至レハ碎見ノ族叢テヤ、モスレハ如来ノ遺教聖
 賢ノ金言ヲ蔑ニスル者アリ憐ナル哉己ハ淺智愚
 蒙ヲ恣ニメ我レト道ニ迷ヒ已ト冥ニ入ルコレ後
 冥入冥ク彼ノクヲキヨリクヲキ道ニゾ入ヌベシト
 詠レ玉ヒレ言ノ葉ノ古ヘモ有ルモノヲセメテ今ニ

選ニ照セ山ノ葉ノ月ト西方月氏国ノ御遺法ヲ頼ヨ
 カレ兼好カ言葉ニ甘工徒然メナレボチクユ工ニツイ
 テレレセトハ是レ聲尋說法ノ御法ヲス、ムル物
 歎尔ラバ隨機ノ習ヒ其品ニ依テ辨セントスルニ爰ニ
 近代天文ノ書ヲ見ルニ天或回大虚一日月周遍運行
 レ玉ヘリ世界未凡ニメ限リレラレスト錐丘五大州ト名
 ツケテ是ヲ并別スルヲ有リ謂ク西亞大州一南阿女
 利訶大州一北阿女利訶大州一會以呂波大州一弥利亞大
 州一近クハ華史構其ノ外夜國等アリテ目ノ及バサルハ命セ
 ス云云尔ルニ今日日本ハ西亞大州ノ中ニメ天竺大唐
 皆ナ同州亞西ノ裏ト云ヘリ
 註云諺ニ阿蘭陀船ハ南天竺ノ境ヨリ出テ日本迄運

送ノ渡海路万里ニ過タリト此間ニ小島三十國ヲ
 過ルル亦タ百三十六國ヲ過ルル云ヘリユレ皆ナ
 亞西亞大洲ノ中ノ別國ナルヨレ是レ恠異ノ説ノ
 様ナレド種々ノ國アリテ今々毎年長崎入津ノ
 船ハ交趾國ヨリ仕立来ル故ニ交趾仕立ノ紅毛
 船ト云ヨレ委ク構高考ニ書リ
 何ニモセヨ世界ハ廣キ一凡見スラ如是レ況ヤ佛
 智見聖見ニ於テヤ頗ル小智ヲ以テ一言モ云
 勿レ且ッ如来聖賢ノ法ヲ信セハ利益モ感応モ有ル
 ベキ凡亦タ天理ニモ叶ニ哉如是云凡起リ難キハ
 信心ナリ鎮テ思ヘコレ賢ヲ見テ齊カラント欲レハ
 賢ク捨テ置ハ邪曲ノ天拘心強増長セ故ニ深ク

思ヒ強ニ信シ玉ヘ信セハ何ッ極樂モ遠ニ有ニヤ
 是レ去此不遠之信セズニバ十億ハ愚カ億百万
 劫ヲ歷ルル往生得ベカラス爰ヲ吉水大師ハ往生ハ
 一定ト思ヘハ一定之不定ト思ヘハ不定ト宜玉ヘリ
 實ニ理ナルカナ爰ニ万国ノ中ニ月氏天竺震旦漢日本
 和ハ日月星ノ三光ニナソラユル所三州俱ニ君子
 國ナリ國ノ廣狹ハ知ラス亞西亞大洲ノ別國其ノ行ノ道ノ廣大
 ナルヲ頑強ノ大千界モ曾中ニ納メ人ノ魂頑ナル
 天地ノ外ヲモ計リ佛經ニ依テ三世遠現ヲ知ル
 聖語ニ由テ天命ヲ知ル神託ニ奇テ正直ニ叶フ
 故ニ往古ヨリ三州俱ニ交リヲ厚クシ親ヲ專ニ
 シテ書ヲ通シ文ヲ送り互ニ礼ヲ磨ク一自余ノ

我^レ國ノ且^テ不知^ル處ナリ故ニ往古ヨリ来朝ノ梵僧
 數^ス度ニ及^ヒ今モ間亦^ニ有^ルフ之^レ漢人ノ来朝ハ猶^ラ
 更^ニナリユレ鄰國ノヨシニ深^シト云^フ中ニモ道^有ル
 國ノ印^ノカ^シ亦^タ和人入唐渡天モ教^度有^リケルハ
 是^レ國ハ隔^ルル^レ其ノ道ノ懇^キカ致^ス處也
 註云國ヲ隔^ルル^レ志^不愛ノ時ハ近^シ同宿^ストモ
 志^シ隔^ルルトキハ其遠^キフ^テ千^万里程ナルヘ^シ鎮
 ベキハ人心ナリ四海皆兄弟ナリトノ聖語同
 入和合海ノ仏教神ノ御^厨ナル神託思^フ可^ク欽
 古哥^一ワスル十日程ハ雲井ニナリ又^ハ
 ソラ行^ク月ノ巡^リ逢^フ迄^ト云^フ
 中ニモ靈龜養老ノ頃入唐^リリ^シ安部ノ仲^六呂ノ義

ツ井^ヲ古来ヨリ異^イ說^セ區^クニメ世ノ人口ニ膾^ハ炙^ス
 ル所^一一定ナラズ此^レヲ考^シトスルニ愚^蒙ノ及^フ
 所^ニ非^スト雖^モ老^婆ノ請^ニ應^テ舊^聞ノ所以^ヲ
 弁^セハ古傳ニ云^ク安部ノ仲^六呂^唐朝^衡晁^衡
 云^フ百人首ノ捨^穂抄^ニ季^ハ雲ノ御^抄ヲ引^テ云^ク
 孝元天皇ノ皇子太^彥尊^安部^氏ノ祖^之云^フ年^曆
 云^フ元明天皇ノ和銅元^戊申^三月ノ生^レ宗^祇云^フ仲^九
 ハ元^正元明^兩代ノ人也^云飛^鳥井^榮雅^古今ノ註
 ニハ元正天皇ノ靈龜二八月遣^唐使^大伴^ノ山^守ニ
 隨^テ入^唐云^フ或^説ニ云^ク多^治比^ノ縣^守遣^唐使^ノ
 時^學迹^ト成^テ入^唐^此時^仲九^云唐^書列^傳二^百二^十云^フ
 朝^臣仲^滿易^姓名^曰朝^衡唐^帝ニ仕^テ秘^書監^至リ

檢校ニウツリ左補闕ヲ歷タリト云云御抄ニ云ク
 此仲九呂久ク在唐メ歸朝ノ時利根無双ノ人ニテ
 歸朝セシテヲ悖ミテ殺トス去レ氏奇瑞在リテ
 歸朝スト云云續日本記三十五ニ云光仁天皇寶
 龜十年五月丙寅先ノ學道安部ノ仲九在唐而亡
 家口偏ニ乏ク葬礼闕ク一有リ勅メ東絕一百匹
 白綿三十屯ヲ賜フ私云若シ此美ニ依ラハ一度ヒ歸
 朝シテ亦入唐メ漢土ニテ卒スト見エタリ亦或
 說ニ云ク聖武天皇ノ時歸朝メ孝兼天皇ノ時天
 平勝宝五年遣唐使ニテ入唐ス古今土依日記等
 ニモ一度ヒ歸朝セシ由見エタリ一說ニ云榮雅古
今ノ註歸
 朝セントシケルガ亦思ヒ止リテ漢土ニテ唐ノ大曆

五年ニ卒ス云云是レ日本ノ室龜五年ニ當ル仲九
 歲七十九也或ル說ニ云唐ノ天寶十二年遣唐大使
 藤原ノ清河ト同船メ歸朝ノ時難風ニ逢テ安南國
 ニ止ル後唐ニ入テ蕭宗ニ仕エ左散騎常侍安南ノ
 都護亦北海郡開國公ニウツリ終ニ天曆五年正月
 卒ス私云若シ此ノ美ニ依ラハ歸朝十キニヤ云云
 江談勇二曰仲九呂靈龜二年ニ遣唐使ト為ル件ノ
 仲九渡唐ノ後歸朝セズ漢家樓上ニ於テ餓死ス
 吉備ノ大臣後渡唐ノ時鬼形ヲ見ル吉備ノ大臣
 言談メ相教唐ノ夏仲九ハ歸朝セサル也云云亦々
 王代一覽ニ曰林春先
生ノ撰元正天王ノ下ニ云ク多治比
 縣守為遣唐使藤原ノ守合副使トス吉備大臣未

下路ノ真備ト云テ二十三才安部ノ仲九十六才二人
共ニ縣守ニ隨テ入唐スト云云養老二年十二月多治比
縣守大唐ヨリ歸ル云云此外般々ノ説アレドモ毛拳
ニイトマラズ

評云遣唐使ハ推古天王ノ定居小野ノ妹子ヲ隨ノ
國ニ遣ス隨ノ煬帝ノ時也大上ノ御田歛ト云モノ
大唐ニツカハサレコト遣唐使ノ權輿歟其後數度
遣唐使ノ更アリ亦入唐ノ人モ度々ナリ

或ル鈔ニ云、ハ海あり少し月と云ふより更長

安倍仲磨

仲磨之冲勢左捕船守子あり元正天皇此冲時遣
唐使アリ於テ學生みたりテ入唐寸なり云云元正記

云云養老二年六月癸亥以從四位下多治比真人縣守
為遣唐押使從四位上阿部物部安齋為大使正六位
下坂原朝臣長壽為副使大判官一人少判官二人攝事
二人少孫事二人九月丙子以從四位下大伴宿禰山守
代為遣唐大使養老元年二月壬申朔遣唐使阿部祇
於蓋山之南中牟遣唐使等決約三月己酉遣唐押
使從四位下多治比真人縣守等自唐國至甲戌進節
比及使入界各關云云養老二年八月從四位上坂原宿禰大
弁亦隨而來敏光仁紀云養老元年三月己丑朔丁卯
初同新羅使來由之日令初正等云云在唐大使坂原
清河學生朝衡屬宿衛王子金隱后屏御書送於
歸親是以同主美初生等令送清河等書云云二十一年

八月丙寅前學生可儀朝臣仲麻呂在唐而乞家以偏
 令葬礼有阙勅賜东絶一百匹白帟三百屯丁卯庚
 使孫興進等歸由是孫興進為唐國正人
 法也て賜一給有り唐老元年遣唐使判官平唐
 成歸朝すそて風よ新色嵬崙國正人の彼王海軍と
 給さす唐人の彼王にまふふとてにら給られて
 唐まで帰る時仲麻呂小遣ひ唐帝に奏して糧
 食をせ給りて天年七年に平群唐成ハ海船有り又續
 日本紀云我朝長學生播磨唐國者唯大信禰吉朝
 衛二人而已仁明天皇和三年詔初曰故雷孝同贈從
 二位安倍朝臣仲麻呂唐老孫之末大教請帝侍兼御
 史中丞少海郡開國公信濃州大郡督朝衛可智正

二位身涉鯨波業成麟角洞峯聳峻學海揚濤顯位
 斯昇英聲已播如何不慈莫遂言敏唯有揆天之章
 長傳擲地之御著追責出壤既降於前重叙崇班
 俾洽於命詔揆

天章とハ今の言とさるるなり
 けまの糸よりさけえまにかまらぬみうまのこり
 出一月かきとせ方ハむらありあはれ海軍一にも
 年一ハ一はくも一海軍のわらわしとて一をへて
 えろとり去さるもれをこれとて又はくいまり
 いふりけるにむくいて下うてまきぬんとていそたり
 けれりおいさくもいそりのうみさめしかのふま
 うまれをれむ事一くれ夜分はありて月のいそ

おりの海くさしつこきりあれと見てさあつて人
 か多り流さる今先流より移すへなるすなりを
 の海ありと地ありつに流るるなりとれありハ
 元正天皇養老元年に遣唐使と流りハさきより付
 去備去居のり下道と地と云々を阿部仲麻呂に
 てもに学ばせし陸行去備云ハ唐武天皇元年に
 帰物せし阿部仲麻呂の流るるにさきより唐書列傳
 二百二十卷武白庵年中真人栗田復朝と副朝長
 仲滿華不旨去易姓名曰胡衡又の還けゆ流り
 の記流わや海ありと云々も慕華不旨去等と
 いふも流りもゆるる北よりなり又流るるなり
 心よりなるも云々乳孝謙天皇元年橘實三年に

友系流河と遣唐使と流るる物もれりなりと云
 三十人六年玄宗皇帝に流りて秘書監とさしり
 たり圖書頭或著北帝と云々姓名と胡衡と改む
 或を罪渾と云たりて下るるをよめりなりと
 にもハありてハ方等に副とたりと云々なりと
 と云に阿部仲麻呂と云なり阿部仲麻呂と云
 大垂王維秘書包依陸海等別を情みて各別別を
 清と流席ハ王維か利を論辨小裁なり王維の傳
 積水不可極安知滄海東九州何處遠万里若系空向
 国唯看日歸帆但候風襲身映天黑魚眼射波紅渾
 樹枝桑外主人孤島中別離方異域音信若通陸
 海詩西掖兼休澣東隅返故林東補郊子學故是哉

初月之山乃端有見一月形也言浪より出て波に
 了然の後さて清河の舟り来て帰らぬ風も過て安
 南西より来る北時李白罪徴すてに漂溺せりを言て
 けいめる詩有り曰日本晁衛祥帝都征帆一何遠方
 盡明月不歸沈碧海白雲愁色滿蒼梧精爽子
 に副使大伴胡鷹言備志備ハ帰船す清河仲春ハ彼
 玉舟為子れ皇帝の命を河川の津舟出てもかま
 らざるんとく旅しきかまりあるやわしき東海を皇
 女と教月のさぬむしありて京もあてみうさの地に
 福部あり一月の舟に面白かりけれを指こめてあり
 皇女も也貴之れ強少し感懐のまり形も言ハる所
 去言日記也又ハと書海客とありゆきとハ

友松舟の以流之たる奇ありかくハるゆや梅り
 さけハる多ふゆを振作とも振起とも書り書き物と
 梅りわぶれて見る公有り此奇今れ海ありハり土佐
 日記あり公のゆり有り天文道也遠一たる人あれ
 月と掌にのきて見る公有り此後舟もたれ
 たり案多事多あり 月も言をたれ 皇有り
 山てハるハるハる河屋さたりこれ文選謝帝送
 月賦云隔千里兮共明月あるとハるハる合す
 又万葉之今れ初ニハれ流きわたりたあり 梅と
 此ハ真多抄ニ新撰髓脳ハるハるハる奇とハる
 海海梅乃よハるハるハるハるハるハるハる
 を出されハるハるハるハるハるハるハる

万七旋頭奇
まろりなるみろりの山も月色出ぬかしきき
山りしもの橋の死のこもく

日十旋頭奇
春日ぬるこころのあつ月のみいつめをれを

みらんさうはききれ教ハつてくわ

此ノ外ニ包絡陸海等が仲丸ヲ送ル餞別ノ詩十ト
有リテ序ハ王維ガ書リ其餞別ノ詩ハ唐詩訓解ニ
載タリ云云如是仲丸ノ入唐ニ附テ種々ノ説有ル
中ニ世ノ人口ニ膾炙スル説アリ源モト江談ノ説
ヨリ出タル者哉亦ハ歌行詩ト名テ野馬臺ノ詩及
樂天力長恨歌杯ノ起リヲ書タル物アリコレヲノ
説ヨリ云へル物カ知ラズ但人ノ口ニ有ニ任セテ
爰ニ筆記シテ老婆勸誘ノ目録物語トモナレガ

レト云云世人言ルハ今世ニ簠簋ト云書アリ委ハ
簠簋内傳金爲玉免集ト号テ則チ安部ノ晴明朝臣ノ
著ス所也今時通用之曆法ハ多ク此ノ書ニ依テ假名書
ニセル物くルルニ此ノ書ハ元大唐ノ維州ノ城荊山
ノ白道仙人天竺ノ五臺山ニ到文殊菩薩ヨリ授玉ヲ
書ナルヲ安部ノ先生ノ白道仙人ヨリ傳テ歸朝ノ後チ
我が家ノ書トナセル故ニ今傳フ安部ノ先生ノ書ト
ハ云也尔ルニ此書將來セル所以ハ昔之人王四十四代
元正天王ノ養老年中ニ安部仲丸ノ入唐ヨリ起ル其
理リヲ尋ルニ柳元正天王ト申シ奉ルハ御室諱氷高
ノ皇女ト申テ天女帝ニテ在ス御母阿閉ノ皇女元正
天王則
ナリ讓リヲ受ケ玉ヒ和銅八乙卯年御即位有女帝ニテ

在バ時ノ執政ハ一品舍人親王也左大臣ハ石上右大臣ハ
 藤原ノ不比等ニテ先帝元明天皇ノ時ノ如クニ朝賀ヲ
 トリヲコナハレケル爰ニ左京ノ職ヨリ詔トメ江州
 浅井郡ノ膳師臣金牙緑毛ノ龜甲ヲ渡三尺計ナルヲ
 捧ケ奉リ我レ々ハ江州湖水ノ逸ニサムラヒテ常ニ
 臘ヲ仕ル今朝不思儀ノ雲氣海上ニ立チテ浪靜ニ
 湖水ヲタヤカニメ水底ニ物アリ則チ釣ヲ下シ
 サムラヒハカ、ル奇妙ノ龜ヲ得テサムラフト
 テ御白砂ニ忍レ入テ申上レハ執政舍人親王ヲハ
 レメ左右ノ大臣各々感悅ナ、メナラヌ中ニモ舍
 人親王進ミ出テノ玉フ、臣不才ナリト兵モ回聞ヲ申サハ
 則チコレ吉瑞ナリ夫レ龜ハ甲ニ三極ヲ頂テ一カ歳ヲ

持トカヤ往古漢伏儀ノ代ニ榮河ヨリ靈龜顯テ
 八卦ヲ負コレ天地定位ノ先天ノ易ナリコレヲ
 河圖ト名ク後テ周ノ文王後天ノ易ヲ考ヘ玉ヒ
 其御子周公且六十四卦ヲ顯シ玉ヒテヨリ天下ノ
 易曆是ヨリ起ル其外靈龜ノ賀瑞和漢兩朝ニ渡テ
 計ルニイトニナシ當君女帝ニテ在セ氏天性聖
 德ヲ備エ玉フニヤト冠ヲカラムケ賀ニ奉レハ左
 右ノ大臣ハ去フニ及ハズ並居ル御上雲客迄各々
 賀瑞ヲノベラレケル帝ト甚ク數感ヲツテ則賀瑞ニ
 ヲツテ年号ヲ靈龜元年ト改元有リ彼ノ龜ヲハ再
 湖水エカエサレケル其後帝重テ勅定アケルハ
 朕イヤシクモ先帝ノ御讓ヲ受テ位ニ即ノトキ

カ、ル奇瑞ノ有ケル夏コソ唯ナラ子然ラハ漢土
 ノ古ヘニナラヒテ万代不易ノ曆道ヲ與シ天下ノ
 民ニ能ク日月ノ運行ヲ弁サセントスルニ我、国
 神代ヨリ易曆ノ道アリト金、猶亦漢朝ノ宣、命曆
 法及ヒ梵土ノ宿曜、至ノ説ヲ用ヒ梵、漢和朝三、國ニ
 貫通セル曆法ヲ起シ一ヲ思、ナリルニ唐土ニハ
 金、鳥王免集ト云書有リト聞、何トブ是ヲ借、得、
 其法ヲ極メ我朝ノ曆法ヲ補、バヤト思、速ニ遣唐
 使ヲ遣、シテ唐帝ヨリ所、望スベキ旨詔有リシカハ
 敢、ノ執政ヲ初メトシ左右ノ大臣公卿ノ面々一同ニ
 實ニ在リ難キ敷慮カナ去リテ速ニ唐土ニ渡、
 難ナク彼ノ書ヲ乞、得テ歸ルヘキ人ハ誰ナルフコト

各、默テ言、テシ暇ニ舍人親王欽テ申サレケルハ臣
 兼、テ玉免集之義聞及ヒ侍リ又彼ノ集、委クハ篋、篋
 内、傳金、鳥玉免集ト名、
 評云、篋、篋トハ云ク方、圓ノ器也年ヲ加、ヘハ謂ク
 天、ハ円、ニ地、ハ方ナリト習、フ易家ノ習、ク天文家者、天地
 コレ易家ト天文家ノ異トス、喩、ハ今、天下ニ通、是レ世界ノ篋、
 用、ノ錢、ハ外、九ク内、角ナルハ易家ノ天地ノ形ナリ、
 篋、之、故ニ天下通用ノ錢、ハ天地ヲ象、リテ其間ニ
 時、ノ年号ヲ居、テ天下ヲ通用ス、足、無メ、乞、ルカ如
 依、テ膏、七カ錢、神、命ニハ無、足、走ト名、ク是、和、方
 錢、ヲ才、ア、シト、林、ルハ源、トコレニ依、ルカ又、料
 足、ト云、羨ニ依、カ、漢ノ古、夏ヲ以、テ和、訓、シテ其
 品、ノ異名トスル、一、被、ノ、酒ノ異名ヲ竹、葉ト云

故ニ和ノ女性篋ト称ルカ如シ外ノ円ナルハ天ノ
 此形内ノ方ナルハ地ノ方形ナシト能ク鵝ノ眼ニ
 似タルヲ以錢ヲ鵝眼ト異名セルヲ和人鳥目ト
 称ルハ鵝眼ノ二字所トツクリヲ畧セル物矣叔テ
 人ノ象ヲ置ハ円ニメ天ニ比シ足ハ方ニメ地ニ喩
 又家具器財悉ク方圓アリ是篋篋也傳ニ云フ篋
 篋ノ内ニ傳フトハ天地ノ内ニ傳フニ云ヘキ軟ト
 云云金鳥ハ日輪ノ美名ノ日ノ中ニ三足ノ鳥ヲ置
 古云鳥ハ衆鳥ニ先キ達テ曙天ニ東方ニ向テ訶
 訶ト啼ルルニ訶字ハ衆生ノ心法ニメ佛家ニハ
 地藏菩薩ノ種字真言也訶々々ノ三字ハ南方唯
 火ノ三數ニメ是心法之故ニ良助法親王ノ地藏

菩薩ノ秘記ニ蓮華三昧經ヲ引テ委ク判シ玉フ
 往思フニ夫レ今時ノ人心ニ思ヒ有ル時ハ鳥屋
 上ニ訶々々啼声能ク心ニ徹ルハ訶字ト心法ト
 同義相求ルトヤ云ニ亦々訶字ハ日輪ノ躰ニメ
 陽ノ極ナリトハ儒ノ教之仏家ニハ心法ノ訶字ニ
 シテ大日如来氏弥陀如来氏又觀音菩薩氏信
 テ敬フ亦我國ノ教ニハ天照皇大神ヲ大日女貴
 ト号シテ則チ日天子是ナリト尊ヒ日輪東天ニ
 出玉ヲラ天ノ岩戸ヲ押開玉フト習ヒ神樂ヲ奏
 シ神スバシメニ東々訶訶ハヤス一有リ東々訶
 訶々ハ日出東方也トシクカチクト覺ヘタルモ
 ヤサシケシ委クハ社職之習ニシテ我力道ニ味

中元入唐記卷一

故ニ畧ス而已ルニ儒ニハ陽ノ極ニ稱メ尊敬
 セズ其ノ理難斗且日輪尊敬者佛家ト神職ト共ニ
 同スル者矣ルニ日没西方ナルニ附テハ往生要
 集及ヒ記ニ委ク御高判有リ短舌及ヒ難ニ淨家ノ
 学士委ク弁シ玉ヘ今日輪ノ中ニ三足ノ鳥ヲ圖ス
 南方ノ雉大思テ知ルヘキ物カ又玉免八月ノ異名之
 異説ニチクナレ且畢竟免ハ陰歎ニメ大方ハ狂
 免ナリ諺云仲秋ノ滿月ニ對テ波上ヲ走り懐胎
 シテ産ス産ルモ亦狂免ナル旨和漢吾夏多シ故ニ
 西行力選集鈔ニモ免八月ニ對シ胎ト侍レハ自ラ
 父ノ恩ハカケタルモ侍レト何カ母ノ恩ノ欠タルヤ
 侍ルト書リ故ニ陰月ニ喻ニヤ亦月中ノ桂ノ免ハ

別ニ習アリ金玉ノ二字ハ嘆羨ノ言ナル哉

漢土雍州城刑山白道仙人渡天レテ五臺山ニ至リ大
 聖文殊大士ヲ拜シ奉リ如來所説ノ大集日藏月藏ノ
 二經及ヒ宿曜聖等ノ天文地理ノ奧義ヲ傳ス又唐
 土ニ歸テ伏儀ノ世ニ出タル運氣論等ヲ考ヘ合テ
 一卷ヲ着シ日月星宿ヲ計リテ書キ顯セル故ニ金
 烏玉免集ト号ス由シ唐帝代々珍翫シ玉イ今ニ
 玄宗皇帝深ク秘藏シ玉ヒ七重ノ宝塔ノ中ニ納メ
 玉ヒテ天子ヨリ外臣下大臣モ拜スルアタワスト
 兼シハ中々他國エトテハ渡シ玉ハルルヲ此書ヲ
 請ヒ得テ歸シテ彼ノ龜城ニ秘藏セル龍ノアキトノ
 繫龍ノ玉ハ得レ此ノ書ヲ得シ難カルヘシ去リ

下ラ勅命モダシ難シ誰シカ其ノ器量備リタル
 人哉アルト工夫ヲ回サレケルニ爰ニ才兼央雄
 ノ人アリ今春日野ノ三笠山ノフモトニ居住安部
 ノ仲丸コソ其人ニ有ル可キ歟ト奏問ニ依テ早
 速綸命ヲ賜リ取ル物モ取アエス奏内アル共骨
 骸慕和勇義ニメ威アツテ武カラス上笏一愆レテ
 伺公アル抑モ此仲丸ト申スハ其上孝元天王皇子
 太彦ノ尊ノ末孫ニテ一品倉橋六呂ノ後胤ニテ
 從五位中將ノ大補安部ノ船守朝臣ノ二男之惣領ハ
 安部ノ好根ト云シガ生得意強惡ニシラ父ノ勅ヲ
 受流浪ス故ニ其名ヲ知ル人モ希ナリ仲丸ハ未タ
 若輩ナシ臣雄才央智ニメ天性ノ年舌アガヤカシ

ケレハ勅命ノ趣キ仰セ渡サレ、仲丸欽テ領掌シ誠
 大切ノ御使タリト金公御殿上人多カル中ニ某ニ
 尊命ヲ蒙リ奉ル一家ノ面目身ノ譽何支カ是ニ
 尔ニヤ某身不宵ナリト金勅命ヲ背ベニ載キ入唐
 セハ己ニ大望成就シテ追付ケ歸朝仕リ此書ニ依
 テ可代不易ノ曆道ヲ起ニ一掌ヲ指カ如ト勇ニ
 進テ勅答アリ己ニ階下ヲオリ玉フ舍人親王聲
 ヲカケ云何ニ仲丸汝頼母敷一言サコソアラメ汝
 ニ於本望遂ラレベシトハ思工共外國ノ秘書ト云
 三千里ノ波濤ヲ赴ユルニ人命不定ナリ云何ノ
 時ニ仲丸フリ歸リ莞尔ト笑ヒヤア愚ナリ某ニ命
 亡ハ亡鬼ト成テ此書ヲ取得テ日本ニ渡シ生シ

仲丸入唐記卷一

十五

賛^カリ死^ニ賛^リ終^ツニ本^ニ望^ニ成就^シテ万^ノ代^ノ不^レ易^ノ曆^ヲ
 道^ヲ與^フサツ^ニハ有^ヘカラスト^ト筋^ヲ以^テ攔^ラハッ
 シト打^タル金^キ重^テハ誠^{ナル}哉^此仲^ノ廣^呂漢^土ニ於^テ
 テ終^ニ冥^途ノ客^トナリヌレト亡^レ魂^則赤^鬼ト成^テ
 四^百余^州ニニタガリ後^ノ遣^唐使^吉備^ノ大^臣ニ
 荷^擔シテ終^ニ其^書ヲ日^本工^渡シ遠^ニ程^登テ
 時^ヲ得^テ安^都ノ晴^明ト成^テ和^朝ニ易^曆道^ヲ
 立^玉フコ^ノカタシケナキ
 聖^語云^人ノ公^トシテハ仁^ニ止^ルト云^リ人^ノ臣^トメハ
 何^リ敬^忠ニ止^ラサラニ哉^ニシテヤ仲^九八^人ニ秀^レ
 君^命ヲ重^ク身^ニ着^ル旅^衣モキヌノ別^ハ妻^子ニ
 了^レ氏^君命^ノ黍^キニ替^テ我^家ニ歸^リ唯^ナラヌ

外^國ノ御^使ヒ三^千里^ノ波^濤ヲ隔^ツル一^ナレハ
 生^死ヲボツカナシト魚^氏シカクノ一^ナ妻^子ニ
 云^ヒ置^レケルハ某^勅命^ヲ蒙^リ外^國ノ客^ト成^シ
 留^至ノ一^ナ妻^モ若^クニシテ一^子滿^月丸^イニタ
 十一^才ノ一^ナレハ萬^端兄^ノ好^根公^ニ頼^レケル
 好^根申^サレケルハ某^亡若^年ノ時^{ヨリ}父^ノ勤^ク
 気^ヲ蒙^リ流^浪ノ身^トナル一^自業^トクヤミウ
 ロ^夕工^歩行^トコロニ才^ナレ氏^仲九^家ヲ續^キ玉
 ヒシヨリ親^兄ノ礼^ヲ重^ニシ某^亡ヲ尋^子呼^返
 サル、上^ハ此^家ノ從^者トナリテ其^方ノ養^育
 ニ預^ル事^全ク才^トハ思^ハズ父^秘守^ノヨミガ
 エラセ玉^フ哉^ト思^ヒ暮^{ケル}所^ニ此^度ノ勅^命且^ハ

家ノ面目ナレセメテ此度ノ留主ヲ守ルコソ某
 己ニ入唐ノ用意急ナリケル頃ハ人王四十四
 代元正天王ノ靈龜ニ丙辰年八月廿三日京ヲ出
 九洲肥前ノ松浦ヨリ乗船アリ風ノニクイツク
 程ニ須風ヤ能カリケニ漢土風渡ノ津正着船ス
 其年霜月未ツカタ是唐ノ玄宗皇帝用元五丙辰
 年トソ聞ケル斯テ都工訃シハ則テ入浴アツテ叅
 内ニ玉フニ実ヤ長安ノ都ト名ニ聞エタル華清
 ノ臺ナレ奇麗微妙莊ゴニハ心言葉モ及ハレス中
 央ノ大床ニハ玄宗皇帝悠然ト座シ玉ヒ左右
 並フ百官百司諸候大夫ノ面々威儀ヲ正シテ例

座アル其名モ高キ長九峯歌詠親安録山揚國忠
 ナト善悪ニツノ忠臣倭臣序ニ進テ見玉フニアラ
 不思美ヤ遣唐使仲丸ノ冠ノ上ニ共長ケ三尺計
 ナル青龍白蛇ノニツノ形千降り龍ノ如ク気ヲ吐
 テツリタル如ク仲丸右ニアレハ右ニ頭レ左ニ在
 レハ左リニ頭レ守護スル有リサニ恠ニカリケル
 莫トモ人仲丸其身ハ斯知ラス飲テ元正天王ノ
 勅使ノ赴キ金馬王免集懇望ノ由申シ宣ラレケ
 レハ帝途ニ聞シ石ニ我國ノ秘書輒ク他國工
 渡シ難ト云日本ノ懇望モタシ難ケレハ迎テ御
 沙汰有ルベキナリ汝暫ク滞留アルヘシトテ其日
 ハ鴻苜館ニ歸リヤスミケル

註云鴻芦館トハ他国ノ客ヲ饗應スル館之日本
ニテモ朝鮮人來ル時ハ武江浅州ノ門跡ノ御堂
ヲ且ク鴻芦館ニナグロフ莫アリ

跡ニテ帝ノ玉ク今日仲凡カ奇瑞ヲ大臣ニ御尋
アルニ歌評規長九峯等歛テ勅答有リケルハ去
シハ今日ノ遣唐使カ奇瑞ヲ考ルニ彼レ唯者ニ
非ス古ヘ殿ノ世ニ思牙ト云ヘル人アリ是天ノ
破軍星ノ變作ナルカ後大好望ト名乗リ周武王
助ケテ終ニ討王ノ慕逆ヲ挫周ノ世數百年ノ基
ヲ起ト云リ此人ノ冠リノ上ニ物有テ常ニ守護
スト云リ亦東方朔ハ刑感星ノ變作ナリ漢王ノ
補テ国大ニ治ル此人ノ冠ノ上ニ物アツテ王子ニ
安部仲凡入唐記一終

